

二〇二三年三月五日

テノールに酔ふ春宵のコンサート

よう子

ドラム缶槽のはみ出す焚火かな

よう子

余寒なほ足湯の混みし道の駅

愛正

梅寒し拍手まばらに大道芸

なつき

翹びたと閉ぢて初蝶線となる

なつき

吊るし雛部屋埋め尽くす旅の宿

はく子

ざく切りの刃先に香る根芹かな

むべ

春霞湯屋の煙突消へし街

凡士

小面の笑み妖しかり春の燭

凡士

早春の風和らげる日和かな

わかば

毎週句会秀句・みのる選・二〇二三年三月六日

首筋に喝と雪解の雫落つ

こすもす

静かなる絢爛梅の床二月

素秀

雛飾る笑顔に覗く二本の歯

はく子

病院の検査に一日日脚のぶ

なつき